

大豆・小豆

管内の生産状況（平成28年）

大豆

栽培面積 1,951ha
出荷量 3,396t
生産者戸数 289戸

小豆

栽培面積 87ha
出荷量 46t
生産者戸数 41戸



栽培品種の特徴

【大豆】

ユキホマレ

大粒の品種です。生育期間が短く多収であるため、近年、道内で最も作付けが多くなっています。糖度が高く、豆腐用途での使用が多くなってきています。

ツルムスメ

国内では数少ない極大粒品種の1つです。

極大粒ならではの旨味があり煮豆、炒り豆、小袋販売、さらに味噌にも適した品種です。

スズマル

小粒品種です。小粒納豆といえば「スズマル」と言えるほど全国のシェアも高く、小粒納豆にしては少し大きめなのが「味がある」理由です。

【小豆】

エリモ小豆

道産小豆の多くがこの品種です。あん適性も優れており、実需から根強い人気があります。

生産・出荷の取組み

J A施設での集約調製（大豆）

良質なものを出荷するため、生産物をJA施設に集め、品種・品位ごとに転選機等の調製機械で未熟粒や異物除去に努めています。

良質豆生産のための

自主規格の設定と自主検査の実施

JA施設に出荷された生産物は、一つひとつ自主規格に基づいた自主検査がなされ、適正な施肥や防除が行われたかを厳しく検査します。

農薬の軽減

豆類は栽培中に雑草が生えやすく、雑草との闘いといえます。当JA管内では、機械除草（カルチ）の普及と活用方法の研究に努め、できるだけ除草剤を使わない栽培に取り組んでいます。

汎用コンバインによる収穫

収穫時期の10月は雨が多く、短時間での収穫作業が必要です。研究を重ねて水稲・小麦に使うコンバインを使えるようにし、品質の維持と省力化（コスト低減）に努めています。

地産地消

大豆は納豆として学校給食で、また当JA管内の豆腐・納豆製造店で使用されており、地産地消を実現しています。

栽培履歴の記帳

生産者には栽培履歴（肥料や農薬の種類や使用量を記入した書類）・GAP（生産工程の管理や改善を行う取組み）の記帳を義務付け、肥料・農薬の適正使用のチェックを行っています。

